神の置かれた場所で

エレミヤ書 29：１～７　　2024/6/19　松並徹治

ソロモン王亡き後、イスラエルは北イスラエル王国（１０部族)、南ユダ王国（２部族）に分裂します、このエレミヤの時代には北イスラエル王国はすでにアッシリヤによって滅亡しており、南ユダ王国も危機的な状況にありました。

今日共に学びます箇所は、１節から 2 節までにありますように、南ユダのエルサレムからバビロンへ引いて行かれた捕囚の民に宛て書かれた手紙です。4 節からがその内容になります。

５節には家を建てて住むこと、自身で働いて報酬を得ることが書かれています。そして６節には結婚し子孫を得るようにと書かれています。なぜ主はこのように言われているのでしょうか。それは８節、９節にあるように偽預言者がエレミヤとは違う預言をしていたからです。どんな預言をしていたかは、28:2～4 を見ていきましょう。「２年のうちにこの場所に帰らせる」とあります。しかし、エレミヤの預言は 10 節に「バビロンの７０年が満ちるころ」とあります。
この時の捕囚の民は、神から見離され希望もなく、感情的になり、生きる意欲を失っていたのではないかと考えられるのです。ですから、すぐに捕囚が終わり故郷に帰ることができるという預言に心を奪われ、惑わされていたのではないでしょうか。またこれは、８節にあるように民が見ていた夢であり、希望だったのでしょう。ここで私が捕囚されたなら、と考えました。なぜこんな環境に、こんな状況に陥ってしまったのか、それを誰かのせいにし、責任を転嫁するのではないかと思います。しかし、ここで 7 節を見ますと、その町の平安を求め、その町のために主に祈れとあるのです。また、その町の平安によって、あなたは平安を得ることになると言われています。なぜバビロンのために平安を祈り求めなければならないのでしょうか。民の心には、当然のことながら、憎しみの思いがあったのではないでしょうか。
バビロンはユダの民が捕囚された町です。なぜその捕囚先の町の平安を祈り求めよと主はいわれるのでしょうか。
そのことを考えておりますと次の聖書箇所が思い浮かんできました。
それは、マタイの福音書 5：43 から 45 節です。お読みいたします。
5:43 『あなたの隣人を愛し、あなたの敵を憎め』と言われていたのを、あなたがたは聞いています。5:44 しかし、わたしはあなたがたに言います。自分の敵を愛し、自分を迫害する者のために祈りなさい。5:45 天におられるあなたがたの父の子どもになるためです。父はご自分の太陽を悪人にも善人にも昇らせ、正しい者にも正しくない者にも雨を降らせてくださるからです。

それは、5:45 にあるように、天におられるあなたがたの父の子どもになるためです。そうです、このために、主がバビロンのために平安を祈り求めるように言われたのです。捕囚され民がバビロンの平安を願い祈るなら、その町の平安が自身の平安となり、主はこの民を神の民に変えようとしておられるのです。

私はこの個所を読み自分の心の中を探られました。それは、私が柏原教会に来たことです。『妻を以前の教会に残し、まだ救われていない娘を残し、自分一人で柏原教会に来て、よかったのだろうか』という思いがあったからです。
その時、4 節と 7 節にある、御言葉に心がひきつけられました。「わたしが引いて行かせた」というところです。1 節にはネブカドネザルがエルサレムからバビロンへ引いて行った」とありますが、4 節と 7 節には「わたしが」となっているのです。ここで 27:5～6 を見ますと、主は「わたしの目にかなった者にこの地を与え、すべての地域をわたしの、しもべ、ネブカドネザルの手に

与える。」といわれているのです。これは、表面上はネブカドネザルによる捕囚なのですが、その背後で主がお働きになっているということであり、捕囚は神の御心であるということなのです。そう考えますと、私が柏原教会で礼拝を捧げているのも神のみこころであったと思えるようになりました。

私はこの奨励のタイトルを「神の置かれた場所で」とつけさせていただきました。
それは、渡辺和子さんが書かれた本を思い出したからです。渡辺和子さんはカトリックの修道女であられ、ノートルダム清心学園理事長でもあられましたが、2016 年 12 月に召されました。渡辺和子さんの著書の中に「置かれた場所で咲きなさい」という本があります。その中の一文を紹介させていただきます。そこには、こう書かれていました。「咲くということは、仕方ないと諦めるのではなく、笑顔で生き、周囲の人々を幸せにすることなのです。置かれたところこそが、今あなたの居場所なのです。」

バビロンこそユダの民の召された地なのです。この地に根を張り額に汗して生きていくことを、主は望まれているのです。この地での経験が民を作り替え、そして神の民とされていくのです。現在に生きる私たちも同じではないでしょうか。今あなたが居るその所は、神があなたを置かれた場所なのです、なぜこのような環境に、なぜこのような状況のところにと思われる方がおられるかもしれませんが、しかしこの状況や環境があなたを作り替えるにふさわしいのです。ですからここから逃げ出すのではなく、避けるのではなく、嘆いたり悲しんだりせず、感謝して受け入れることなのです。そして状況や環境を変えることではなく、あなた自身が神の子に相応しい者へと変えていただくように、心を注ぎだして主に祈りましょう。主が最善を導いてくださいます。

私は、この個所を黙想しておりますと、アブラハムのことを思い出しました。
創世記 12：1～4 をお読みいたします。
12:1 【主】はアブラムに言われた。「あなたは、あなたの土地、あなたの親族、あなたの父の家を離れて、わたしが示す地へ行きなさい。
12:2 そうすれば、わたしはあなたを大いなる国民とし、あなたを祝福し、あなたの名を大いなるものとする。あなたは祝福となりなさい。
12:3 わたしは、あなたを祝福する者を祝福し、あなたを呪う者をのろう。地のすべての部族は、あなたによって祝福される。」
12:4 アブラムは、【主】が告げられたとおりに出て行った。ロトも彼と一緒であった。ハランを出たとき、アブラムは七十五歳であった。

アブラハムはどこに行くのかを知らずに出ていきました。しかし主のことばに従うとき、祝福を与えてくださるのです。またエルサレムの人々の中には、エレミヤの預言に聞き従わない人々もいたのです。29:16～19 節を見ますと、捕囚として出て行かなかった民には、裁きのことばが述べられているのです。

主は 70 年という長い年月、つまりあなたの生涯を通して、神の子にしようと御計画をお持ちなのです。その訓練の場所は、今あなたが置かれている場所であり、環境であり、状況なのです。
最後に聖書を 1 か所お読みし終わりたいと思います。
ヘブル人への手紙
12:6 主はその愛する者を訓練し、受け入れるすべての子に、むちを加えられるのだから。」
12:7 訓練として耐え忍びなさい。神はあなたがたを子として扱っておられるのです。父が訓練しない子がいるでしょうか。